

編集後記

平成 27 年 10 月より着工された松山赤十字病院の新病院建築事業が、令和 4 年 12 月 26 日、ついにグランドオープンを迎えました。誰よりもこの日を待ち望んでいた故・測上忠彦先生も喜んでくださったと存じます。これからも地域社会に貢献できる病院として、その役割を全うできればと心に刻んだ日となりました。

そして本号では、同じく新病院開設に尽力されました前院長・横田英介先生に巻頭言をご寄稿いただきました。超高齢化社会を迎えるにあたり構築すべき医療提供体制について、高度急性期医療の提供はもちろん、複数の基礎疾患を併せ持つ高齢者を診療するために包括的な医療を担う医師の養成が不可欠であるとメッセージをいただきました。

今回は 8 名の医師・看護師・検査技師の皆様からご投稿いただきました。サイトメガロウイルス感染後脾梗塞の症例ではウイルス感染時の凝固亢進について考察されました。心アミロイドーシスの症例検討では心電図・心エコーの特徴的所見から早期診断につなげる重要性が、腹部大動脈狭窄の症例報告では造影 CT でとらえきれない動脈狭窄をエコーでとらえ、Multimodality の重要性が示唆されました。倫理的事例の対応調査ではコンサルテーションチームによる組織的支援が強調されました。眼科からは淋菌性眼窩隔膜前蜂巣炎の症例が、内科研修医 2 名から亜鉛長期投与による鉄欠乏性貧血の症例および日本猩紅熱の症例が報告されました。リウマチ科からはリウマチ性前足部変形に対する関節温存術と形成術の成績が比較され、温存術の優位性が報告されました。研修医の先生からの投稿が多く、若い世代の学究的な姿勢が病院全体のリサーチマインドを向上させる文化につながるものと有難く存じます。

コロナ禍にみる光と影、この 3 年間は医療費負担増・医療崩壊など暗い部分ばかりが目立ってきましたが、今では当たり前になったオンライン会議・講演・診療など、明るい部分がさらに浸透しますよう、また新しい社屋で人に優しい診療ができますよう切に願っています。

—— 2022 年 12 月 呼吸器内科部長 兼松 貴則 記 ——

編集委員

藤崎 智明	盛重 邦雄	上甲 武志	眞庭 聡
近藤しおり	白石 猛	兼松 貴則	梶原 了治
酒井 富美			

令和 4 年 12 月 28 日 印刷
令和 4 年 12 月 28 日 発行

発行者 松山赤十字病院長
西 崎 隆

発行所 松山赤十字病院医学雑誌編集部
〒790-8524 松山市文京町 1 番
電話 (089) 924-1111

印刷 セキ株式会社
松山市湊町 7 丁目 7-1